

令和 7 年度 生涯学習課の施策（社会教育関連）

目標 課として育成したい人物イメージ・・・「誰」に「どうなってもらいたい」か

・「あらゆる市民」に「すすんで学び、成長することができる人になってもらいたい」

ふりかえり 上記の目標に照らして、昨年度の事業で果たせた点、反省点

【市民講座「未来スケッチ」（よなごアカデミー）】

＜果たせた点＞

- ・数か月にわたる講座において、参加者自らが目標を立てて学習に取り組むことができた。
- ・グループワークを通じ互いの活動や取組に興味を持ち、活発なコミュニケーションを行い、講座終了後にも他の参加者の活動見学に行くなどのつながりづくりができた。

＜反省点＞

- ・参加者が少なく周知に課題が残った。開催回数が 3 回では少ないという声もあった。

【二十歳を祝う会】

＜果たせた点＞

- ・当事者有志で構成する実行委員会が企画を立案し、実施に結びつけることができた。
- ・新成人(二十歳)のほか実行委員 O B 3 名が参加し、実行委員会内がつながりあい、助言や専門知識を生かした支援が行われるなど、主体的に企画の検討を行うことができた。
- ・当日は進行も務めて会場が一体となる運営ができた。

＜反省点＞

- ・内容過多となり予定時間を超過した。円滑な進行について検討が必要。

今年度の計画 上記を踏まえて、今年度取り組むこと（継続することも含む）

○ 伝える工夫

- ・事業の目的について明確化を図るなど、より市民に伝えるよう工夫に取り組む。
- ・あらゆる広報媒体の活用や関係団体等への周知等により、広く市民に情報を届ける。

○ 内容の充実

- ・「未来スケッチ」は参加者の声を踏まえて回数を増やし、一層の内容の充実を図る。
- ・「二十歳を祝う会」は必要な助言等により、実行委員会での主体的な企画検討を促す。

令和 7 年度 地域振興課の施策（社会教育関連）

目 標 課として育成したい人物イメージ・・・「誰」に「どうなってもらいたい」か

・「地域の人々」に「地域に目を向け、地域活動に参画するようになってもらいたい」

ふりかえり 上記の目標に照らして、昨年度の事業で果たせた点、反省点

【公民館の運営】

<果たせた点>

- ・各公民館において運動会等をはじめとした地域活動の企画や実施の場面を通じて、活動への参加を促す環境づくりに取り組むことができた。
- ・各種講座等の実施により、社会問題や地域課題に関する啓発や、参加者同士のつながりづくりができた。

<反省点>

- ・活動への主体的な関係者が固定的になりやすく、新たな人材の育成・確保が課題。
- ・地域活動によっては、縮小傾向が見られ、つながりづくりが十分にできなかった。

今年度の計画 上記を踏まえて、今年度取り組むこと（継続することも含む）

- ・公民館職員研修等を通じ、地域資源に着目した取組に関する啓発を図る。
- ・地域活動に関する相談に対して、地域の特徴等を踏まえた対応や提案を心がける。
- ・公民館事業に関する情報交換を促進し、あらためて地域の強みの再認識を図る。

令和 7 年度 こども政策課の施策（社会教育関連）

目標 課として育成したい人物イメージ・・・「誰」に「どうなってもらいたい」か

・「子どもたち」に

①「様々な体験・経験を通じて、健やかでたくましく生きる力やコミュニケーション能力を身に付けるとともに、地域において自主的・主体的に行動してほしい。」

②「自分が育つ地域への理解・関心を深めてほしい。」

・「子どもたちを取り巻く地域住民」に

①「地域の未来を担う子どもたちの成長を地域全体で支えてほしい。」

②「子どもとの関わりを通じて、社会教育活動を生きがいづくりにつなげてほしい。」

・「保護者」に

①「子どもの心と体の成長に必要なこと（基本的生活習慣、体験・経験等）に気づき、実践につなげてほしい」

②「子どもの成長に応じて、子育てを楽しんでほしい。」

ふりかえり 上記の目標に照らして、昨年度の事業で果たせた点、反省点

【放課後こども教室】

＜果たせた点＞

①地域住民の参画を得て、子どもたちに対し学習支援やスポーツ、文化活動等の機会を提供したことで、子どもの体験機会の創出するとともに、地域の大人たちと子どもたちのつながりづくりに資することができた。

②放課後の「こどもの居場所」づくりに資することができた。

＜反省点＞

①現在、放課後子ども教室の実施校区は1校（義方小学校区）であるため、地域の実情を勘案しながら事業を拡大していく必要がある。

②参加者が少なく周知に課題が残った。

【家庭教育支援事業】

＜果たせた点＞

①タムタムスクール及びPTA 子育て講座の開催により、子どもの成長に応じた保護者の学習機会を確保することで、新しい「気づき」を得てもらうことができた。また、講座によっては保護者同士の仲間づくりに資することができた。

②乳幼児期の家庭教育支援を行う「米子市家庭教育支援チーム」が、「タムタムスクール」等の機会をとらえて保護者の身近な相談相手となることで、子育ての不安・悩みの軽減に資することができた。

＜反省点＞

①学校における子どもたちの課題の解消に向けた施策の一つとして、就学前の家庭教育支援が重要と考えることから、「タムタムスクール」以外にも新たな事業の展開が必要

である。

②家庭教育支援活動に関わる人材（家庭教育支援チーム等）の継続的な確保が必要である。

③子育てに課題を抱えている家庭に支援の情報が届くよう、広報を充実させる必要がある。

今年度の計画 上記を踏まえて、今年度取り組むこと（継続することも含む）

【放課後こども教室】

①実施校区の拡大について

・学校運営協議会や公民館等において、地域の子どもたちに対する活動の情報を把握し、「放課後子ども教室」が効果的である地域に対し、事業内容を周知し活動支援を図る。

②事業内容の充実及び広報について

・参加者の声を聞き、事業内容の充実を図るとともに、対象校区の児童に対し、効果的な周知を行う。

【家庭教育支援事業】

①新たな事業の拡充について

・家庭において、まずは子どもの基本的な生活習慣と、親子の信頼関係づくりの2点に焦点を絞った家庭教育支援事業を、学校、民間団体等の関係機関と連携して展開する。（どこに行っても同じ内容を目にする状況を作る。）

・課題を抱える家庭に対しては、相談方法等を提示する。

②関わる人の人材確保について

・引き続き、新規のチーム員の発掘に努めるほか、上記の新規事業において協力を求めるに当たり、本市の取組にご理解を得て、関わっていただく人材の確保に努める。

③必要な家庭への情報提供について

・引き続き福祉関係部局と連携し、相談窓口へのチラシの設置や健診等の機会をとらえて情報提供を行うほか、子育て中の保護者に対して、SNS等を活用して情報提供を行う。

令和 7 年度 人権政策課の施策（社会教育関連）

目 標 課として育成したい人物イメージ・・・「誰」に「どうなってもらいたい」か

「すべての市民」に「お互いの人権を尊重し、人権問題を自分自身のこととしてとらえ、自ら行動に移すことができる人になってもらいたい」

ふりかえり 上記の目標に照らして、昨年度の事業で果たせた点、反省点

【人権教育地域懇談会（小地域懇談会）の開催】

<果たせた点>

全公民館地区（29地区）で開催し、のべ44回・885人の参加があった。DVDを使った学習や、講演会、ワークショップ等さまざまな内容での人権学習の場となった。

<反省点>

より多くの人に参加してもらうため、内容や開催日時等をいろいろ変えて開催しているが、多くは人権に関係する住民の参加に留まっている。

【人権啓発の推進】

<果たせた点>

通年にわたり、人権学習講座の開催や広報・啓発誌の発行、人権に係る啓発展示、人権学習に係る資料の貸出等を行った。

<反省点>

今年度の計画 上記を踏まえて、今年度取り組むこと（継続することも含む）

より多くの市民に「人権」に継続して触れてもらうため、従来の手法にとらわれることなく、テーマや開催方法等について関係先等と協議・実践していきたい。

令和 7 年度 文化振興課の施策（社会教育関連）

目標 課として育成したい人物イメージ・・・「誰」に「どうなってもらいたい」か
 ・「あらゆる市民」に「文化芸術に触れることで、多様な美的感覚や表現に対する感受性を磨き、より豊かな人間性や創造力を持つ人になってもらいたい」

ふりかえり 上記の目標に照らして、昨年度の事業で果たせた点、反省点

【鑑賞事業・展覧会事業】

＜果たせた点＞

- ・美術館やホール施設において、多くの市民が優れた文化芸術を鑑賞する機会を提供するとともに、市美術展覧会や音楽祭、秋の文化祭等、文化芸術活動の成果を発表する場を設けることで、文化芸術に対する活動意欲の向上を図るための事業の実施ができた。

＜反省点＞

- ・参加者、鑑賞者が少ない事業があった。魅力ある事業内容の企画が必要である。

【学校公演事業】

＜果たせた点＞

- ・小学生を対象に、アーティストが学校に出向き、音楽・演劇・能などを公演し、多様な芸術に触れ、興味を持ってもらう契機となった。
- ・公会堂においてジャズ公演「はじめての JAZZ」を開催し、ホールに足を運んで音楽を鑑賞してもらう体験を通して、芸術の幅の広さを子どもたちに伝え、公共ホールや文化芸術への関心を深めてもらうことができた。

＜反省点＞

- ・公会堂で開催したジャズ公演は、市内の全小学校に参加を募ったが、200名余りの参加に留まった。

今年度の計画 上記を踏まえて、今年度取り組むこと（継続することも含む）

○多様な文化芸術鑑賞機会と発表機会の提供

- ・郷土への誇りや愛着を育む取り組みと、社会のトレンドを踏まえた事業を組み合わせることで、多様な文化芸術に触れる機会を提供していく。
- ・伝統ある市美術展や音楽祭、秋の文化祭を継続して開催し、市民が文化芸術活動の成果を発表できる場を引き続き提供していく。
- ・公会堂におけるジャズ公演は、子どもたちが音楽ホールで直接音楽に触れることで、豊かな人間性を育むことが期待できることから、多くの小学校が参加するように一層の理解を求めていく。

○内容の充実

- ・各実施事業は、来場者数の実績や参加者アンケートの結果を踏まえ、一層の内容の充実を図る。

○周知の強化

- ・若年層に対して、文化芸術の取組を広く周知するため、市報・ホームページのみならず、SNS等を活用した情報発信を積極的に行う。

令和 7 年度 スポーツ振興課の施策（社会教育関連）

目標 課として育成したい人物イメージ・・・「誰」に「どうなってもらいたい」か

「あらゆる市民」に「スポーツに親しみ、健康で豊かに暮らせる人になってもらいたい」

ふりかえり 上記の目標に照らして、昨年度の事業で果たせた点、反省点

＜果たせた点＞

- ・市民体育祭、親子体力づくり大会、正月マラソン大会、米子市歩け歩け大会、少年スポーツ教室など様々な世代を対象にしたスポーツ大会や教室を開催することで、スポーツに親しむ機会を創出することができた。
- ・米子市民球場の大規模改修工事を実施したり、米子アリーナ整備事業に着手するなどスポーツに親しむ環境の整備に取り組むことができた。
- ・スポーツ推進委員と連携し、体力テスト会を開催するなど地域におけるスポーツ活動への参加促進に取り組むことができた。
- ・全日本トライアスロン皆生大会、皆生・大山 SEA TO SUMMIT などスポーツツーリズムイベントの開催を支援することで、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図ることができた。
- ・パリオリンピック・パラリンピックに出場された本市ゆかり選手への各種支援やガイナレ鳥取の応援を促進することで、地域の一体感の醸成に寄与することができた。

＜反省点＞

- ・参加者の少ない大会がある。
- ・夏場の気温上昇のため、中止となった教室があった。
- ・参加者の少ないスポーツツーリズムイベントがある。

今年度の計画 上記を踏まえて、今年度取り組むこと（継続することも含む）

○内容の検討

- ・参加者の少ない大会については、競技団体と連携して、大会の開催方法などの見直しに取り組む。
- ・夏場の気温上昇により、教室を中止にせざるを得ない場合があるので、開催時期を変更する。

○伝わる工夫

- ・参加者の少ないスポーツツーリズムイベントについては、主催者と連携して、参加者の増加につながるような取組を行う。